

薬系学科 6年制新卒の43%が薬局に 国立大の4年制は9割が進学！

旺文社 教育情報センター 2020年1月

(一社)薬学教育協議会はこのほど、2019年3月卒の薬系学科生の就職動向をまとめた。これによると、2019年3月卒の6年制薬系学科生の就職先は、薬局に43%、病院・診療所に22%などとなっている。一方、4年制薬系学科生の74%が進学していることが判明した。以下に概要を紹介する。

【6年制卒業生】就職先は「薬局」がトップ、就職先「未定」の割合は減少傾向

6年制卒業生10,400人(男子4,063人、女子6,337人)のうち、就職したものは8,826人。就職先は、薬局4,455人(42.8%<卒業者に占める割合、以下同>)、病院・診療所勤務2,240人(21.5%)、企業1,043人(10.0%)など。なお進学者は177人(1.7%)となっている。また卒業生の約6割を占める女子の就職先も、薬局が42.7%、病院・診療所勤務が24.2%などとなっている。<表①・②・グラフ①・②参照>

なお、6年制卒業生数は前年(9,579人)より821人増加したが、就職先「未定」は80人の増加(1,058人→1,138人)にとどまり、卒業生に占める割合は10.9%と減少傾向が続いている(2015年12.8%→2016年11.9%→2017年11.5%→2018年11.0%)。

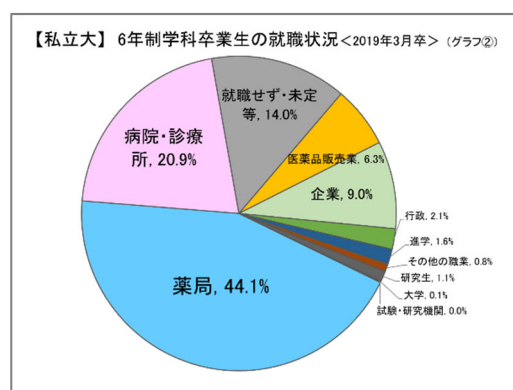
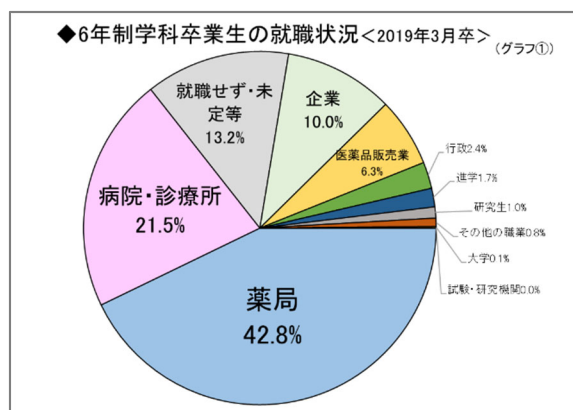
一方、6年制卒業生の93.1%を占める私立大6年制卒業生9,687人の就職先をみると、薬局4,268人(44.1%<卒業者に占める割合、以下同>)、病院・診療所勤務2,028人(20.9%)、企業872人(9.0%)。進学者は152人(1.6%)など。

●2019年3月「6年制 薬系学科卒業生」の就職概要 (表①)

		男	割合	女	割合	合計	割合
就職した者	給与の判明した者	2,559	63.0%	4,334	68.4%	6,893	66.3%
	給与の判明しない者	813	20.0%	1,120	17.7%	1,933	18.6%
就職しなかった者	無給実習・見習い	4	0.1%	16	0.3%	20	0.2%
	進学	112	2.8%	65	1.0%	177	1.7%
	非就職者	117	2.9%	122	1.9%	239	2.3%
	未定	458	11.3%	680	10.7%	1,138	10.9%
	計	4,063	100.0%	6,337	100.0%	10,400	100.0%
就職した者(合計)		3,372	83.0%	5,454	86.1%	8,826	84.9%

●2019年3月「6年制 薬系学科卒業生」の就職状況 (表②)

	男	割合	女	割合	合計	割合
薬局	1,752	43.1%	2,703	42.7%	4,455	42.8%
医薬品販売業	268	6.6%	388	6.1%	656	6.3%
病院・診療所	708	17.4%	1,532	24.2%	2,240	21.5%
試験・研究機関	1	0.0%	1	0.0%	2	0.0%
大学	2	0.0%	11	0.2%	13	0.1%
行政	122	3.0%	130	2.1%	252	2.4%
企業	451	11.1%	592	9.3%	1,043	10.0%
研究生	35	0.9%	71	1.1%	106	1.0%
進学	112	2.8%	65	1.0%	177	1.7%
就職せず	117	2.9%	122	1.9%	239	2.3%
未定	458	11.3%	680	10.7%	1,138	10.9%
その他の職業	37	0.9%	42	0.7%	79	0.8%
計	4,063	100.0%	6,337	100.0%	10,400	100.0%

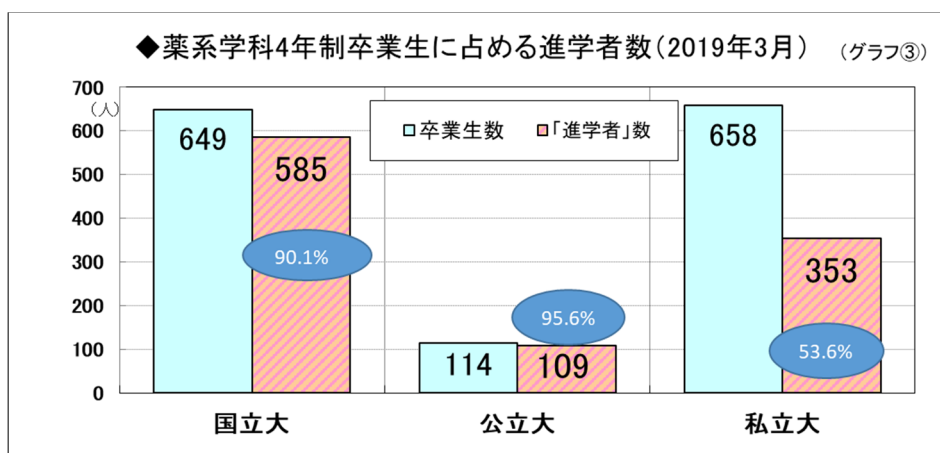


【4年制卒業生】全体で74%が進学

4年制卒業生1,421人(男子891人、女子530人)のうち、進学したものは1,047人(進学率73.7%、男子723人、女子324人)。進学率は昨年(75.2%)より1.5ポイント減少。進学者数を大学設置別で見ると、国立大卒585人(国立大卒全体の90.1%)、公立大卒109人(公立大卒全体の95.6%)、私立大卒353人(私立大卒全体の53.6%)となっている。一方、就職したものは309人(21.7%、男子124人、女子185人)。<表③、グラフ③参照>

●2019年3月「4年制 薬学科卒業生」の就職概要 (表③)

		男	割合	女	割合	合計	割合
就職した者	給与の判明した者	84	9.4%	130	24.5%	214	15.1%
	給与の判明しない者	40	4.5%	55	10.4%	95	6.7%
就職しなかった者	無給実習・見習い	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
	進学	723	81.1%	324	61.1%	1,047	73.7%
	非就職者	21	2.4%	15	2.8%	36	2.5%
	未定	22	2.5%	6	1.1%	28	2.0%
	計	891	100.0%	530	100.0%	1,421	100.0%
就職した者(合計)		124	13.9%	185	34.9%	309	21.7%



※資料：「薬系大学卒業生・大学院修了者 就職動向調査の集計報告」令和元年11月：一般社団法人 薬学教育協議会

＝2019年3月における国公立薬系大学（73大学74学部）の6年制および4年制の学部卒業生ならびに大学院博士課程（前期）（修士課程）・同博士課程（後期）（博士課程）修了者の就職動向をまとめたもの。

*山陽小野田市立山口東京理科大は卒業生不在のため、調査対象外。

■薬学系学科を取り巻く環境はさらに変わる

卒業後の概況は以上のとおりである。なお、薬学教育協議会の資料では薬剤師国家試験の状況にも触れている。6年制の卒業生の薬剤師国家試験の状況（第104回：2019年2月実施）では、新卒受験者総数は9,508人、合格者は8,129人（合格率85.50%）であった。新卒者の合格率は前年（84.87%）とほぼ同率（0.63ポイントのアップ）である。しかし、新卒者（10,400人）のうち892人（8.58%）は国家試験を未受験であり、これを加味する（合格者÷新卒者総数）と、新卒者の薬剤師資格取得者の割合は78.2%（前年76.3%）に低下する。未受験者への対応が課題である。

一方で薬学部（いずれも6年制学科）の新増設は今後も続く予定である。2020年は国際医療福祉大が福岡薬学部（薬学科120人）、岐阜医療科学大が薬学部（薬学科100人）を開設。また設置構想中として、2021年は和歌山県立医科大が薬学部（薬学科100人）、湘南医療大が薬学部（医療薬学科130人）など。*（ ）内の数字は入学定員。

さらに4年制をなくし、6年制のみとなる大学の流れも出ている。2019年には大阪大が、2021年には徳島大が6年制のみとなる。いずれも4年制と6年制を発展的に融合し、先進的な創薬研究や高度薬剤師の育成などをめざすとしている。なお、薬学部を持たない大阪府立大は、全学域生を対象に、分野横断型の「創薬科学副専攻」を2020年から新設し、創薬研究者（特にバイオ医薬品開発に従事）の養成をめざす。

このように薬学の進路にかかわる環境も大きく変化している。薬学系をめざす受験生も単に資格志向だけではなく、様々な教育・研究内容・進路などを考えて大学・学部・学科の選択をして欲しい。